

# インフルエンザ&マイコプラズマ → 生産性への影響に注目!

## インフルエンザ対策、実施していますか?



マイコプラズマとインフルエンザが混合感染すると、生産性が低下!  
発熱は一過性であっても…

- ✓ 飼料摂取量が低下
- ✓ 増体量が低下 することがデータで示されています。

参考文献: Deblanc C. et al., Vet. Microbiol. 162 (2013), 643-651

### 【試験設定】

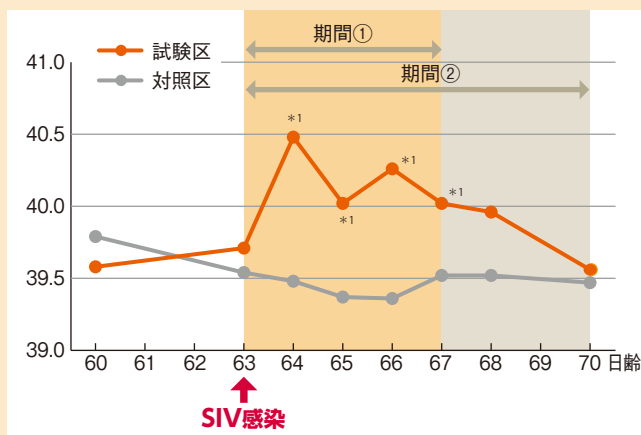
6週齢のSPF豚 (Mhp (*Mycoplasma hyopneumoniae*), 豚インフルエンザウイルス (SIV) フリー)

	頭数	試験0日 (42日齢)	試験1日 (43日齢)	試験21日 (63日齢)	剖検
試験区	9頭	Mhp感染	Mhp感染	SIV感染	試験28日
対照区	8頭	培地のみ	培地のみ	培地のみ	試験31日

試験区は、Mhp もしくは SIV を含んだ液体培地を試験0, 1, 21日に経気道投与 (強制人工感染)  
対照区は、Mhp・SIVのいずれも含まない液体培地を試験0, 1, 21日に経気道投与  
臨床症状は試験期間中、毎日観察

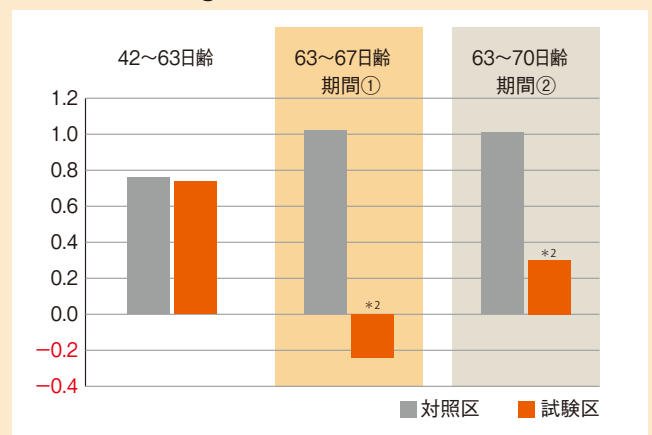
### 【試験結果】

体温 (直腸温、℃)



\*1 対照区との間に有意差あり (P≤0.05)

平均日増体量 (kg/日)



\*2 対照区との間に有意差あり (P≤0.05)

	呼吸数	飼料摂取量 <sup>†</sup>	肺病変 <sup>‡</sup>
試験区	72~88回/分	511g回/日	48.9% (13.7/28)
対照区	32~44回/分	1,743g回/日	0% (0/28)

<sup>†</sup> 飼料摂取量は、SIV人工感染 (試験21日) から4日間の平均値  
<sup>‡</sup> 最大値を28としたうちの病変スコア (Madec et al., 1982)

SIV の影響は、  
一過性の発熱だけではありません!

- 呼吸数が増加
- 飼料摂取量が低下

→ 増体量が大幅にダウン!

マイコプラズマ感染下でインフルエンザが  
混合感染すると生産性が著しく低下



豚にも  
ワクチンが有効です



フルシュア®ERは、  
豚インフルエンザと豚丹毒を  
同時に予防できるワクチンです。

豚インフルエンザ・豚丹毒混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン

# フルシュア®ER

## フルシュア®ERの特長

### 1. 日本で浸潤している3種のインフルエンザ株に有効性が期待できます。

フルシュア®ERは、不活化された豚インフルエンザA型のH1N1株、H3N2株と豚丹毒菌の不活化液を主剤としています。本製剤に含まれるH1N1株はH1N2株との交差が認められることから、日本で発生が報告されている3種のインフルエンザ株に対して有効性が期待されます。

### 2. 安全性の高い不活化豚丹毒菌株を使用しています。

フルシュア®ERは、病原性復帰の心配がない不活化ワクチンであり、免疫原性に関与する豚丹毒菌培養上清濃縮液を使用しており、不純物が少なく、副反応が少ない安全性の高いワクチンです。

### 3. 優れたオイルアジュバント「アンフィジェン」を使用しています。

アンフィジェン®(レシチン加軽質流動パラフィン)は高い免疫応答を引き起こすオイルアジュバントであり、注射局所の刺激と残留が少なく、高い抗体価を得られることが期待できます。

### 4. 2種の疾病予防を1剤で投与でき、作業の省力化がはかれます。



LS200105